

山弓連 平成23年 9月

第64回山梨県体育祭弓道競技

平成23年9月11日(日) 小瀬武道館弓道場
 競技時間開始9時30分終了16時40分

昼食 11時45分～12時30分

各市町村の代表として、各選手は日ごろの稽古の成果を遺憾なく発揮して、地元の成績に貢献できるように意気込んで試合に臨みました。

緊張の中で天野会長の矢渡しを観覧し、張り詰めた雰囲気の中で熱戦の火蓋は切って落とされました。特に市の部の男子団体は富士吉田市、南アルプス市、が毎年優勝を狙い意気込んで、それに甲府市が喰い込めるか?と秘かに闘志を燃やし、それぞれ心穏やかならず試合に臨み、相手チームの的中に一喜一憂しながらの試合でした。

成績

団体戦の部

市の部男子(40射) 市の部女子(24射)

- | | |
|----------------|-------------|
| 1位 富士吉田市 27中 | 甲府市14中(競射) |
| 2位 南アルプス市 22中 | 笛吹市14中(競射) |
| 3位 中央市 18中 | 都留市11中 |
| 4位 笛吹市 17中 | 南ア市10中 |
| 5位 甲府市(競射) 16中 | 北杜市 9中 |
| 6位 甲斐市(競射) 16中 | 富士吉田市8中(競射) |
| 7位 都留市 15中 | 中央市 8中(競射) |
| 8位 山梨市 14中 | 甲斐市 7中 |

町村の部男子(24射) 町村の部女子(24射)

- | | |
|---------------|--------------|
| 1位 市川三郷町 16中 | 身延町 6中(競射) |
| 2位 富士河口湖町 9中 | 市川三郷町 6中(競射) |
| 3位 昭和町(競射) 9中 | 富士川町 4中 |
| 4位 身延町(競射) 9中 | 昭和町 1中 |

個人戦の部

市の部男子(8射) 市の部女子(8射)

- | | |
|----------------|------------|
| 1位 桑原 良 8中 | 野矢晴香6中(競射) |
| 2位 中込 実 7中(競射) | 小泉 茜6中(競射) |
| 3位 長沢和久 7中(競射) | 渡辺純子6中(競射) |

町村の部男子(8射) 町村の部女子(8射)

- | | |
|------------|----------|
| 1位 渡辺 司 8中 | 保坂真美 5中 |
| 2位 渡辺元樹 5中 | 伊藤恵子 3中 |
| 3位 藤原正徳 4中 | 依田しのぶ 2中 |

市の部男子		一回	二回		
氏名					
富士吉田市	羽田徳高	○ ○ ○ × ○ ○ ○ ×	6	27	1位
	渡辺正樹	○ ○ × × ○ × ○ ○	5		
	杉本 惇	× × ○ ○ × × ○ ×	3		
	渡辺英幸	○ ○ ○ × × ○ ○ ×	5		
	桑原 良	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	8		

市の部男子		一回	二回		
氏名					
南アルプス市	長沢和久	○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○	7	22	2位
	丸山精一	× × × × × × × ×			
	山本政樹	○ × × × ○ ○ × ○	4		
	深澤 勇	× × ○ × ○ × ○ ○	4		
	中込 実	○ ○ ○ ○ ○ ○ × ○	7		

市の部男子		一回	二回		
氏名					
中央市	渡辺 洋	× × ○ × × ○ ○ ○	4	18	3位
	香月 隆	× × × × × × × ×			
	石川光造	× ○ ○ ○ × ○ ○ ○	6		
	篠崎 亮	○ × ○ × ○ × × ○	4		
	上田靖人	× × ○ ○ ○ ○ × ×	4		

市の部女子		一回	二回		
氏名					
甲府市	野矢美里	○ × ○ × × ○ ○ ×	4	14	1位
	野矢晴香	○ × ○ ○ × ○ ○ ○	6		
	久保寺美恵子	× × ○ ○ × × ○ ○	4		

市の部女子		一回	二回		
氏名					
笛吹市	小泉 茜	○ ○ ○ × ○ × ○ ○	6	14	2位
	梶原久美子	○ × ○ ○ ○ × × ×	4		
	菊島喜代子	○ × × ○ ○ ○ × ×	4		

町の部男子		一回	二回		
氏名					
都留市	佐野好子	× ○ ○ × × ○ × ×	3	11	3位
	市川とよ子	× × ○ × ○ ○ ○ ×	4		
	白井佑果	× ○ ○ ○ ○ × × ×	4		

町の部男子		一回	二回		
氏名					
市川三郷町	近藤賢一	○ × ○ ○ × × × ○	4	16	1位
	藤原正徳	× ○ ○ × × ○ ○ ×	4		
	渡辺 司	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	8		

町の部男子		一回	二回		
氏名					
富士河口湖町	渡辺雅宏	× × × × × × ○ ×	1	9	2位
	渡辺元樹	× ○ ○ ○ × ○ ○ ×	5		
	萱沼 学	× ○ × × × × ○ ○	3		

町の部男子		一回	二回		
氏名					
昭和町	渡辺誠一	× ○ ○ × × ○ × ○	4	9	3位
	横森良平	× × × × ○ × ○ ○	3		
	深澤武重	○ × × × ○ × × ×	2		

町村の部女子		一回	二回								
氏名											
身延町	中田悠香	×	○	×	×	×	×	×	1	○	
	磯野幸子	×	○	×	×	×	○	×	2	×	1位
	伊藤恵子	○	×	×	×	×	×	○	3	○	
市川三郷町		一回	二回								
氏名											
市川三郷町	保坂真美	×	○	○	×	○	×	○	5	×	
	斎木理沙	×	×	×	×	×	×	×		×	2位
	繁田美智子	×	×	○	×	×	×	×	1	×	
富士川町		一回	二回								
氏名											
富士川町	大川文子	×	×	×	○	×	×	×	2		
	内藤浩子	×	×	×	×	○	×	○	2	4	3位
	依田しのぶ	×	×	×	×	×	×	×			

古屋副会長講評・異議申し立て、又競技中について多少問題があり、全日本弓道連盟競技規則を熟知して競技に臨んだほうが良い旨、今後の課題として捉えていかなければならないと、注意がありました。

国体関ブロック予選堂々上位通過

8月27、28日茨城県水戸において国体関東予選において、少年女子1位、成年男子3位入賞、で堂々上位通過しました、本大会（10月2～5日山口市）での優勝を期待します。

通過県は

成年男子、神奈川、千葉、山梨、埼玉、東京
 成年女子、群馬、千葉、埼玉、神奈川
 少年男子、栃木、神奈川、千葉
 少年女子、東京、山梨、栃木

国体壮行射会、支部対抗戦

平成23年9月18日（日）参加数 35名
 国体選手壮行会の大会が支部対抗で行われ、開会式で天野会長が、先の関ブロック予選で開催県の茨城県が落選、このようなこともあるので、ぜひ気を引き締めて臨んでいただきたいと挨拶されました。参加チームは、混成チーム、少年女子チームをいれて8チームは少々参加数が少ない感は否めない。
 射数・各自8射計40射

団体優勝・南アルプス22中 2位・甲府21中
 3位・教職員16中

少年女子チームは特別参加 26中

個人優勝・大野陽子（南ア）6中

2位・豊田浩正（甲府）6中3位・根津里美（笛吹）

6中 4位・中澤国弘（甲府）6中5位・大野晃史（南ア）6中（6中同中者は合計7名射詰競射、優勝射詰が6中は、レベル的にはどうか??）

大月市制57周年祝賀弓道大会

8月7日（日）猛暑の中でありましたが、県内外の弓道愛好家60名が集い日頃の練習成果を披露し盛大に実施されました。

団体の部3位まで入賞、個人の部20位までの入賞としました。弓道場は福正寺境内にあります。寺院のご好意により本堂、釈迦堂を休息・更衣室に使わせていただきました。午後、雷雨となりましたが、競技は整然と実施されました。寺院並びに弓友の皆様のご協力誠に有難うございました。

団体の部

優勝富士吉田B（渡辺律子、渡辺正樹、渡辺幸太）
 2位 甲府（斉藤光幸、藤巻拓郎、豊田浩正）
 3位 浜町B（青木亨一、山口利幸、小室輝夫）

個人の部

優勝・渡辺幸太 2位・酒井紀夫
 3位・舟久保正一 4位・斉藤光幸
 5位・高部保延 6位・和智一雄
 7位・神田英彦 8位・山口利幸
 9位・渡辺正樹 10位・小室輝夫
 同中者はすべて競射 優勝決定戦は射抜きN

平成23年度 弓道教室開催（報告）
 富士川町弓道部 部長 米長朝善
 日本古来の武道である弓道を広く皆さんに体験又、部員拡大にしようと今年も町教育委員会、町体育協会、弓道部により、八月二三日～二七日まで富士川町殿原弓道場で開催されました。中学生、社会人、六名の参加者があり、弓道部員の指導により、射場に立ち矢を射るまでに楽しそうに弓道教室が終了しました。これを機に弓道部に入部してもらえればと願っています。
 平成二十三年八月三十日

国民体育大会関東ブロック予選

（少年）を終えて 少年女子監督 中沢友二

8月28日に茨城県水戸市で行われた国民体育大会関東ブロック予選、少年は男子が4位、女子が1位という成績でした。女子は昨年に引き続き本国体への出場権を得ることができましたが、男子はあと少

しのところまでいきましたが、出場権を得ることができず、目標としていたアベック出場とはいきませんでした。

6月末に行われた選手選考会で選手が選考され、男女ともに射技が整っており、県外大会での実績も豊富なことから、男女とも例年になく期待できるチームを編成することができました。7月、8月の2ヶ月間、全選手が関東ブロック突破を目標に全力で練習に取り組んできました。特に3年生は進路選択が迫られる時期でもあり、不安を抱えながらも練習になると気持ちを切り替え、県の代表選手としての自覚を持って打ち込んでくれました。大会前日に行われた公開練習において、男子は納得いく状況で終えることができましたが、女子は少し不安が残る終わり方となってしまいました。

近的競技は男子から始まり、1回目が12射11中と高スタート、2回目が8中と落ちましたが24射19中と高い的中を残しました。特に小野寺の8射8中、内藤の8射7中は立派でした。しかし、その上が2チームあり、19中も4チームあるレベルの高い結果でした。その厳しい状況の中、射詰め競技では3人が的中し、3位で近的を終えることができました。執念で詰めた姿は、観客に大きな感動を与えました。

女子もその流れを引き継いでいきたかったのですが、1回目が7中と出遅れてしまいました。気持ちを切り替えて2回目に挑みましたが、同じく7中、計14中という結果でした。前日から調子を落としていた2年の宮下を3年の三枝、西中山が必死で支え続けましたが、同中競技でも調子を取り戻せずに敗れ、近的4位で終わりました。

午後から行われた遠的競技では男子が1回目54点、2回目68点、計122点と練習での結果に近い点数を残しました。特に近的で力を出し切れなかった小林が50点と健闘し、4位で遠的を終えました。最終成績は3位の得点でしたが、同得点であった千葉県近的順位が高かったため、代表権を得ることができませんでした。

女子は1回目が52点と普段の練習からして平凡な点数でしたが、全体が伸び悩んだことから1位で折り返すことができました。しかし、2回目は他都県の点数が伸びる中、46点と下がり、計98点の3位という結果に終わりました。女子は近的で上位に位置していたチームが遠的で崩れ、近的で出遅れたチームが遠的で高得点を残したことから、すぐには最終結果が出ない状況でした。結果、1位タイでブロック予選を通過することができました。大逆転

での1位通過とはいえ、遠的であと2点下がっていたら、全体順位も4位に沈んでいたことから、8都県の力に差が無く、非常に厳しい戦いでありました。

その中でも、遠近共に初矢を確実に入れてチームに勢いをつけた三枝、こちらも遠近共に止め矢を確実に入れ、チームの流れをつなぎ続けた西中山の活躍には光るものがありました。共に巨摩高校の選手として昨年の沖縄インターハイで2年生ながらチームの中心選手として活躍し、準優勝の実績を残し、その後も多くの県外大会を経験してきた力が最後の勝負強さにつながっているのだと思います。今回力を出すことができなかった宮下、補欠の加藤、望月の3名は2年生であり、あと1ヶ月、先輩達と共に練習する時間を大切にし、来年のことも見据える中で、県の代表選手としての自覚を学んでもらいたい。

コーチの小林弘子先生とは3回目の国体になります。今年は男子1名、女子2名が巨摩高校からの選手ということもあり、心配で毎回の練習に足を運んでいただきました。近年の国体での高成績も小林先生あっての結果だと感じています。天野会長、森岡理事長をはじめ、山弓連、高体連の応援にかけていただいた先生方に深く感謝申し上げます。不安を抱えながら射場に入った選手達を勇気付ける素晴らしい応援でした。その思いを胸に山口国体では山梨県、関東の代表として精一杯戦ってきますので、今後とも応援よろしくお祈りします。

訃報

有賀武雄理事（教士六段）ご逝去

今年2月以来闘病中であった有賀氏は去る8月15日未明静かに息を引き取られました。満82歳の誕生日を間近に控えてのお盆の最中でした。入院直前までのお元気な様子を振り返ると、健康を維持することの難しさと命の脆さ儚さを再認識させられることでもあります。

氏は長い弓歴の中で若年の頃より、その才覚と責任感、企画力と事務処理能力等を発揮され、多くの先輩諸氏から信頼され、同輩や後輩方からは頼られていつも山弓連の要職を担ってこられました。その結実には総務部長や理事長として連盟の運営を円滑に、公正・公平にと心がけて各部の指導と調整を見事に実行されました。年齢的には決して若くはないながら、お歳を感じさせない澁刺として歯切れのよい説明ぶりにも、ユーモアもあり人を思いやる心の優しさが溢れておりました。誠に有為な先輩である重鎮を失いましたが、限りある人の命の定め、氏のご冥福を全会員共々衷心よりお祈りしたいと思います。

余白を借りて参考資料を掲載します。
(全弓連、競技規則、抜粋)

第 4 章 禁止事項及び罰則

1. 禁止事項

第50条 次の事項は禁止とする。

1. 一旦射位について射手が、審判委員の許可なく射位を離れること。
2. 射位について射手が、口頭、またはその他の方法で助言を求めたり、受けること。
3. 射手が、本座、または射位で不必要な声を発し、または他の射手に助言すること。
4. 進行担当委員、および審判委員以外の者が射手に近づくこと。
5. 矢返しをすること。
ただし、審判委員長が事情をやむを得ないと判定した場合に限りできる。

2. 罰 則

第51条 次の場合の矢は無効とする。

1. 矢番え完了後に、筈ごぼれし、またはその他の事由で引き直しした矢。
矢番え完了とは、矢を番えした後、右手を腰に取った時点をいう。
2. 同一射場において前の射手より先にはなしした矢。

50

1. 一旦射位について射手は、射位を離れてはならないのは当然である。射位を離れることは自ら棄権することを意味するからである。従ってやむを得ず射位を離れなければならない時は、審判委員の許可を必要とする。
2. 射位の射手は独力で行射をしなければならない。しかるに射手の欠点を教えることが往々にしてある。はなはだしい場合は審判委員や役員がゼスチャーで示すことがある。
3. 射手が本座や射位でお互いに激励するために「行こう」とか「よし」とか「たのむ」とか発言していることがあるが、これは弓道競技の特徴として禁止されなければならない。応援者といえども、射手が「会」になった場合は静粛にするマナーは持ってほしい。
4. 射位にある射手には誰でも近づいてはならない。行射を指示する恐れもある。しかし、競技の運行上必要な場合は、進行担当委員と審判委員のみは差し支えない。

51 ここでいう無効とは行射中の矢、および既に離された矢を対象とする。

1. 筈ごぼれとは、矢が床に落ちることではなく、筈が弦から離れることをいうのである。従って引分けの際、筈がはずれると弦に入れ直すことがあるが、これは引き直しと見て無効とする。
2. 第12条で行射の順序は1番の射手から順次行うように規定されている。従ってこれを守らない場合は罰則としてその矢は無効とする。進行上非常に短時間で行射しなければならない場合は、競技委員長はあらかじめ行射の順不同は差し支えない旨を宣告しなければならない。

第 5 章 補

則

第55条 競技者は、審判委員の判定に服さなければならないが、異議ある場合は、直ちに監督を通じて（監督がいない場合は選手）審判委員長に申し出ることができる。

55 審判委員長は、異議の申し立てがあった場合は、申し立て者と審判委員の意見をよく聞き、直ちに公正な判断を下さなければならない。

異議の申し立て者は、「あたり」、「はずれ」については、矢を抜かないうちに、また射場の事故については立がかわらないうちに行わなければならない。